



校長室だより

スローガン ～生徒も先生も、自ら輝く学校～

目指す学校像

『未来を、たくましく生き抜ける生徒』の育成
キーワード「自立・貢献・創造」

令和3年7月20日(火)
発行者 田熊利光



石橋中ホームページQRコード

ファーストステージ(1stS)終了

明日、7月21日からいよいよ夏休みに入ります。ファーストステージ(1stS)終了に当たり、石中が目指している「生活面」と「授業」について確認したいと思います。夏休みは、コロナ禍の生活様式を意識しつつ、自分の目標を見据えて有意義な時間を過ごしてください。セカンドステージ(2ndS)も皆さんの元気なあいさつ、授業や輝石祭で輝く姿を楽しみにしています。

生活面の目標＝「凡事徹底」

誰にでもできる当たり前のことを、誰にも真似できないくらい磨きをかけることで、「凡事」が「非凡」に変わるということを意識して皆さんは生活してきました。

7月14日水曜日に、15名の先生方が石橋中学校に訪問されました。先生方から「生徒の皆さんの感じのよい挨拶が素晴らしいですね。」と、お褒めの言葉をいただきました。各教室を訪問した際も、「こんにちは」と感じよく挨拶ができるクラスが多かったです。これは、感じの良い挨拶が当たり前の習慣として身に付いてきた証です。

また、修学旅行では、ホテルの方、見学先のガイドさん、お店の方から、「こんなにきちんと挨拶ができる生徒さんは珍しいです。」と褒められました。3年生のように学校の外でも挨拶が当たり前にできるのは本物だと思います。

このように、挨拶を徹底することで、多くの方に感動を与えていることを自信に変えて、さらに素晴らしい挨拶を心がけて欲しいと思います。

下駄箱の靴・自転車の置き方にも気を配り、綺麗に整った環境が維持されているのも素晴らしいことです。3分前着席もほとんどのクラスが定着しています。今後とも「凡事徹底」を継続し、更なるレベルアップをしていきましょう。

「学び合いの授業」について伝えたいこと

今、全国的に「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改革が行われています。石橋中学校では、新学習指導要領の改訂以前から、**東京大学名誉教授、佐藤学先生の「学びの共同体の理念」に基づく学び合い学習**を進めており、グループ学習が定着しています。

一人では解決できない課題を仲間との協働と対話で解決します。一人ではできなくても、仲間の支えがあれば、高い山の山頂に立つことができるということです。仲間とできたことは、やがて一人でもできるようになります。このことを発見したのは、レフ・ヴィゴツキーという教育学者です。今から百年も前の人ですが、既に100年後の教育を予見していた人です。彼のこの理論を「**発達の最近接領域**」と呼びます。例を示せば、自転車乗りです。補助なし自転車を初めから乗れた人はいないはずですが、親の補助・支えがあって、何度も倒れそうになりながら練習し、やがて支えがなくても一人でも乗れるようになったはずですが、仲間と頑張ればなんとかできる高めの課題に挑戦する理由は、**皆さんの明日の発達を促し、一人ではできなかった課題を一人でもできるようにするため**です。逆に言えば、一人でもできるような難易度の低い課題を繰り返しても、皆さんのレベルは上がりません。私たち人間が成長するには、少し難易度の高いことに挑戦することが大事なのです。

部活動でたとえば、地区大会で勝ちたいと考えて練習しているチームと、全国優勝を目指しているチーム(高いゴールイメージを持っているチーム)では、練習への意識が全く違い、結果も大きな差がつくということです。学習も高いゴールイメージを持って、挑戦する学びによりレベルアップするのです。

ハードルの高めの課題(社会の問題を先取りしている課題・皆さんの疑問から出た課題・できそうでできない知的好奇心を揺さぶるような課題・教科の本質に迫る課題等)を解決するために必要なのは「基礎・基本」です。授業で、基礎・基本を学ぶ場面と、発展課題に挑戦する場面があるのはこのためです。教科によって課題は異なりますが、応用問題を仲間と共に解決する過程で、**自然に対話(自己との対話・仲間との対話・教科書や先人との対話)が生まれ、仲間の多様な考えに触れて、自分の思考も深まります**。発展的な課題を解くことで、必然的に**基本と応用を行ったり来たりする学びが生まれ、結果的に基礎・基本の定着も図られます**。

学びの基本は「聴く」ことです。友達の話をしっかり聴いて、自分の意見を構築します。「**真剣に聴きあう関係**」ができているクラスは、間違いなく学力が向上します。また、真剣に仲間

と対話して考えることで、思考力が高まり、いくらでも書けるようになります。私の経験では、国語の「授業記録」を、A4レポート用紙20枚も書いた生徒がいました。クラス平均でも5枚程度の授業記録を書き上げる力が付きます。これは大学生レベルです。こうなると、「高校入試の作文や読解問題は簡単です。」と言い出す先輩たちがたくさんいました。

学び合い学習の**大切な作法**は、分からないときは「**分からないから教えて**」と言うことです。将来、皆さんが社会に出たら分かりますが、仕事をしていて分からないことに会うことがたくさんあります。その時に、一人で悩んでいたら解決できません。そんな時、「分からないから教えてください。」と謙虚な姿勢で人に聞ければ解決できます。つまり、「**人を頼れる人は自立できる**」ということです。だから、分からないときは恥ずかしがらず人に聞くことが大切です。「**学びの本質は謙虚さ**」であること忘れないでください。

また、**聞かれた人は、その人が分かるように丁寧に教える**ことも大切な作法です。学習の定着率を上げるのに何が有効かを調べた研究があります。それによると、人に教えることが大きな効果があることが分かっています。つまり、「**インプットしたことをアウトプットする**」ことが記憶の定着には重要なのです。しかも、「**相手が分かるように**」という意識が「**学び直し**」になり、自分の**知識や技能の確実な定着**に繋がります。だから教える人も得、教えられる人も得。これを「**互恵的な学び**」と呼びます。ポイントは**仲間との信頼関係**です。間違った発言も認められ、何でも言い合える安心感がクラスにあるかどうかのポイントです。皆さんのクラスはこの「**温かい関係**」が築かれていますか。**誰も一人にしないこと、一人残らず大切にされ、お互いを認め合い、励まし合い、男女の壁もなく、みんな大切な仲間として共に学ぶ意識**を持ちましょう。

（社会の変化と教育の変化）

一昔前は「**消費社会**」と言われました。マニュアル通りに正確にできる能力が大切でした。先生の役割は**インストラクター（教える人）**でした。先生が板書したことを、生徒はノートに写す。一斉授業と言われるスタイルで、効率よく知識を伝えることが大事でした。（現在でも基礎・基本を抑える場面では一斉授業スタイルはあります）

今は、「**情報社会**」です。様々な知識・情報は一瞬で手に入ります。大切なのは、知識・情報を正しく捉え、判断し、自分なりの考えを持ち、情報を使いこなす「**情報操作能力**」です。また、これからは予測困難な社会で、一人では解決できない課題を仲間と共に解決していくことが大切です。だから授業でも「**協働と対話**」が大切なのです。今、求められている先生の役割は「**ファシリテーター（話をまとめる人）**」です。仲間との情報のやり取りや対話を通して、考えが深まり、**新たな視点を獲得**できるよう、**先生は、「つなぎ役」**になります。それは高い山を登って行くイメージです。先生は諦めかけている人を励ましたり、そっと背中を押したり、ヒントを出したり、仲間とつないだりして、一人では到達できない高い山の頂上に立つための「**足場を掛ける**」わけです。仲間たちと山頂に立って見える景色は、今までと違う素晴らしい景色です。これが「**新たな視点の獲得・新たな価値の創造**」と言われることです。

では、その先の未来はどうかというと「**創造社会**」になると言われています。今までになかったものやことを創造していく社会です。そんな時代を生き抜くのに必要なのは「**自分で未来を創造する力**」です。先生の役割は「**ジェネレーター（生成する人）**」になると言われています。別の言い方をすれば「**生き方を通して在り方を示す存在・自らの探究心で、周囲に影響を与え、探究する場を生成する人**」に変わります。何かを創造する過程で様々なことを学ぶ教育が大事になります。

皆さんは、既に**未来を先取り**して、このような学びを経験をしています。昨年度、コロナ禍の卒業式での在校生サプライズ呼びかけ。運動会での縦割り団のマスゲームの創造です。また、これから始まる輝石祭のゼミ活動も、**何かを創造する過程で様々なことを学ぶ体験**そのものです。先生も生徒と共に創造することを愉しみ、伴走者として走っていくイメージが変わってきます。

いずれにしても、学校の授業の主役は生徒の皆さんです！皆さんが全面に出て活躍する姿を期待しています。是非、皆さんには、「**未来は自分で切り拓くんだ！**」という**気概**を持って欲しいと思います。夢や目標を持って、それを形にできる「**自立型人間**」を目指しましょう。そのための力を今から付けていきましょう。

地区大会の結果(17日・18日実施)

卓球部 **男子団体優勝**

女子団体予選敗退

剣道部 男子団体予選リーグ敗退・女子団体予選リーグ敗退

テニス部 男子団体1回戦敗退

ハンドボール部 **男子3位(県大会出場)**・女子1回戦敗退

惜しくも負けてしまったチームも、春の大会より接戦した白熱の戦いを見せてくれました。

剣道部女子は1ポイント差の大接戦で県大会出場を逃しましたが、全員が全力で戦う姿勢に感動しました。今回、卓球部男子が春の大会では完敗だった、第1シードの国分寺中を破り、見事優勝を果たしました。

県大会に出場する7チームと、個人で出場する選手の皆さんは、暑さ対策をしっかりとって、万全の準備をして試合に臨んで欲しいと思います。

